

C-39

# 和裁に於ける採寸方法についての一考察(第4報)

東京家政大家政 〇高月智志子 榎富ミサコ

目的 和服寸法設定に当り、人体のどの部位をどのように採寸し、算出するのが適当なのか、第3報に引き続き、今回は大裁女物長着のゆき丈について基礎的研究を行なった。

方法 本学学生90名を被験者とし、ゆき丈寸法に関連すると思われる部位の人体計測を行なうとともに、実験者による着装実験を行なった。

結果 ゆき丈の着やぶさ、着にくさは着装時に袖口が手のどの部位に落ち着くかによっても変わり、また着装の仕方によってもゆき丈は長くなることがわかった。即ち衣紋を扱い異なる場合(肩山を後にする場合は、ややゆき丈が長くなる結果を得た。又採寸に当っては手を水平にあげお七頸椎から尺骨頭の中突までを採寸し(A)、手を下げた状態で体型に合わせお七頸椎から尺骨頭の中突までを採寸し(B)、次の式により適当なゆき丈寸法を求める事ができた。

$$\frac{A+B}{2} - \begin{matrix} 0m \\ \text{内外} \end{matrix}$$